

2023年5月10-11日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分・流向流速の観測結果とホタテガイラーバの分布状況についてお知らせします。

(函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

【水温の鉛直分布】

湾内の海面から20m深までの水温は概ね5~8℃台で、ほぼ平年並みとなっています。20m以深の水温は、湾奥ではほぼ平年並、湾口および湾外は平年と比べやや高くなっています。

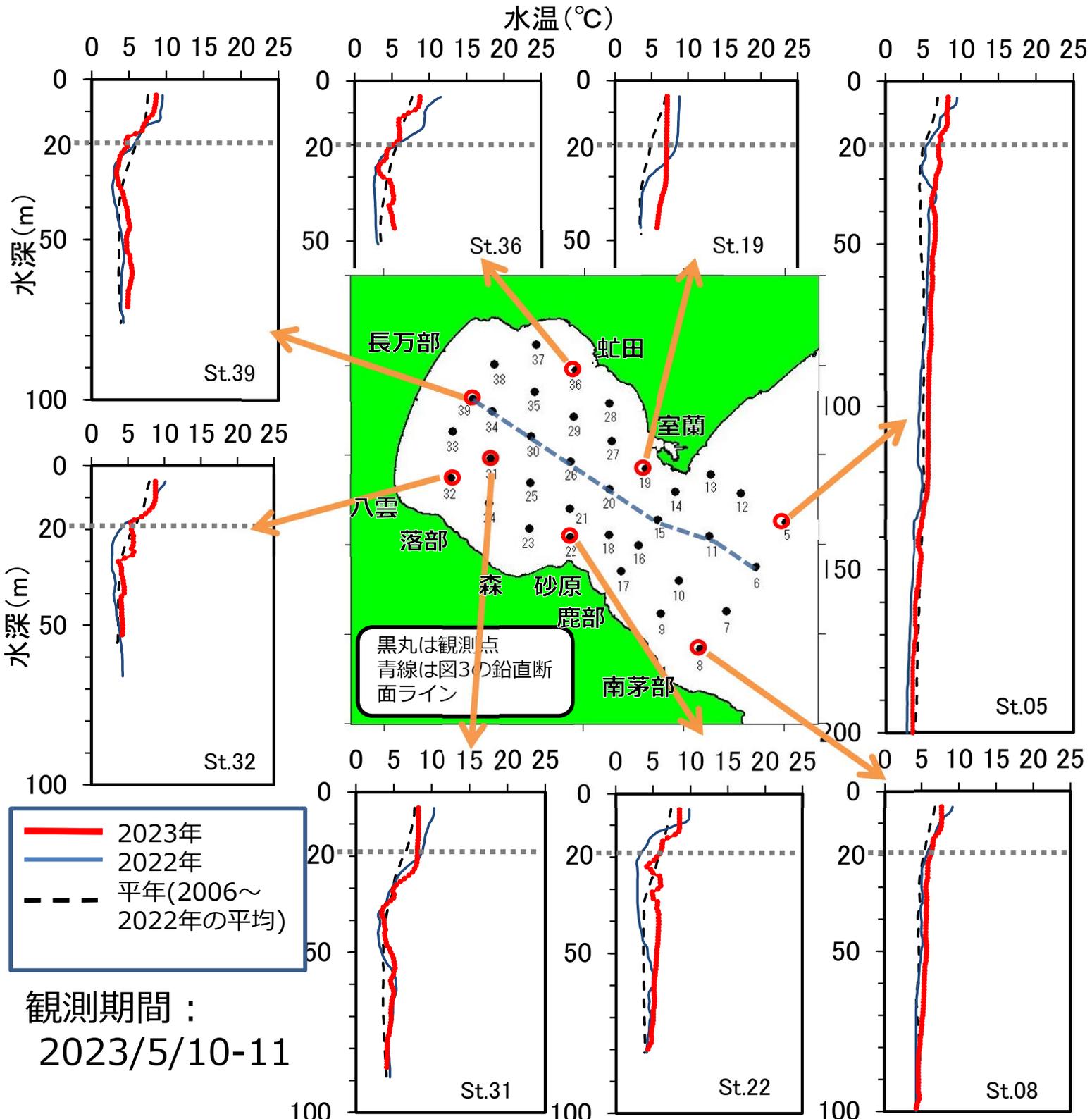


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

【水平分布：水温，流向流速，ホタテガイラーバ】

湾内の深度10mの水温は伊達沖を除いて7℃以上となっています（A）。深度30mでは、湾内の水温は湾外よりも低くなっていました（B）。湾中央から湾奥にかけて時計回りの渦が形成され始めています（C）。

ホタテガイラーバはすべての調査点で見られ、平均密度は455個/トン、湾中央から湾東部にかけて密度が高い傾向がありました。殻長150-160μm台が主体でした（D）。

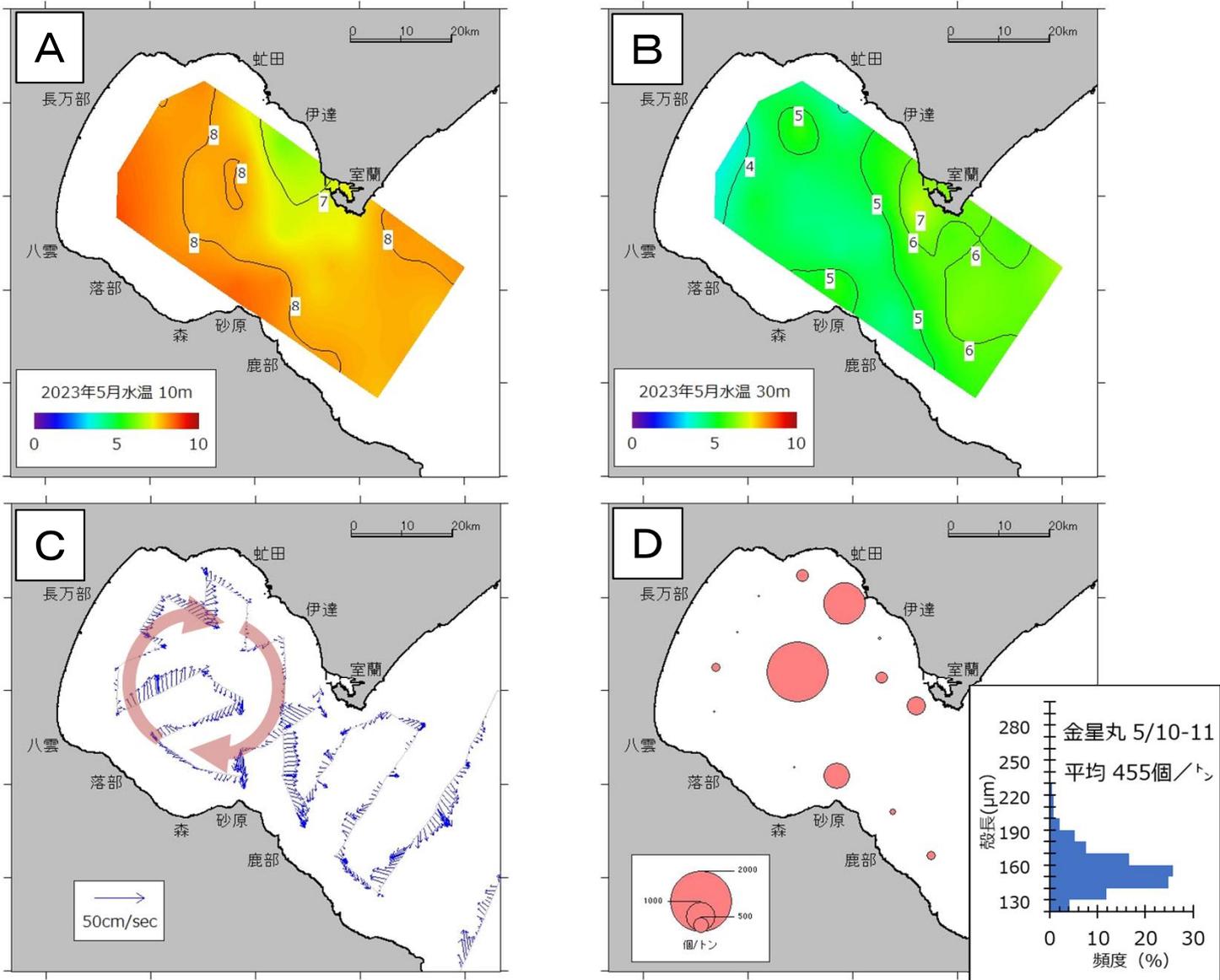


図2 A:水温（深度10m），B:水温（深度30m），C:流向流速（深度13m），D:ホタテラーバの分布

【水温，塩分の鉛直断面分布】

湾内および湾外の深度20m以深は概ね水温4～7℃，塩分は32.4～33.6となっていました。冬季に親潮系水（水温3℃以下，塩分33.3以下）の湾内への流入が多くなかったと推察されます。

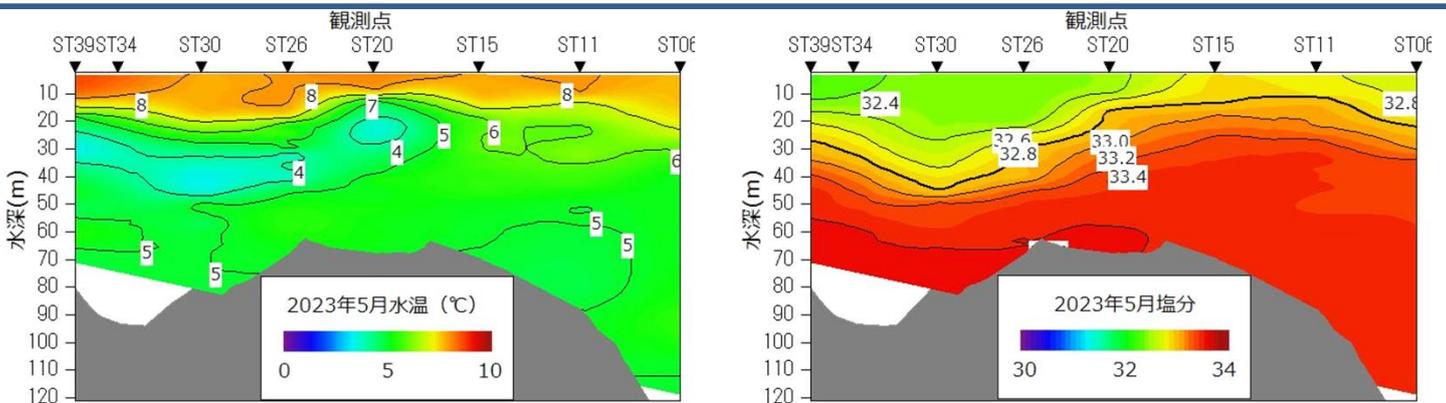


図3 水温・塩分の鉛直断面図（断面の位置は図1参照）